

1 軍事情報の収集

情勢の推移に応じた的確に防衛政策を立案し、また、各種事態への対処において防衛力を効果的に運用するためには、わが国周辺などにおける中長期的な軍事動向を把握するとともに、各種事態の兆候を早期に察知することが必要である。このため、防衛省・自衛隊は、平素から、各種の手段による情報の迅速・的確な収集に努めている。

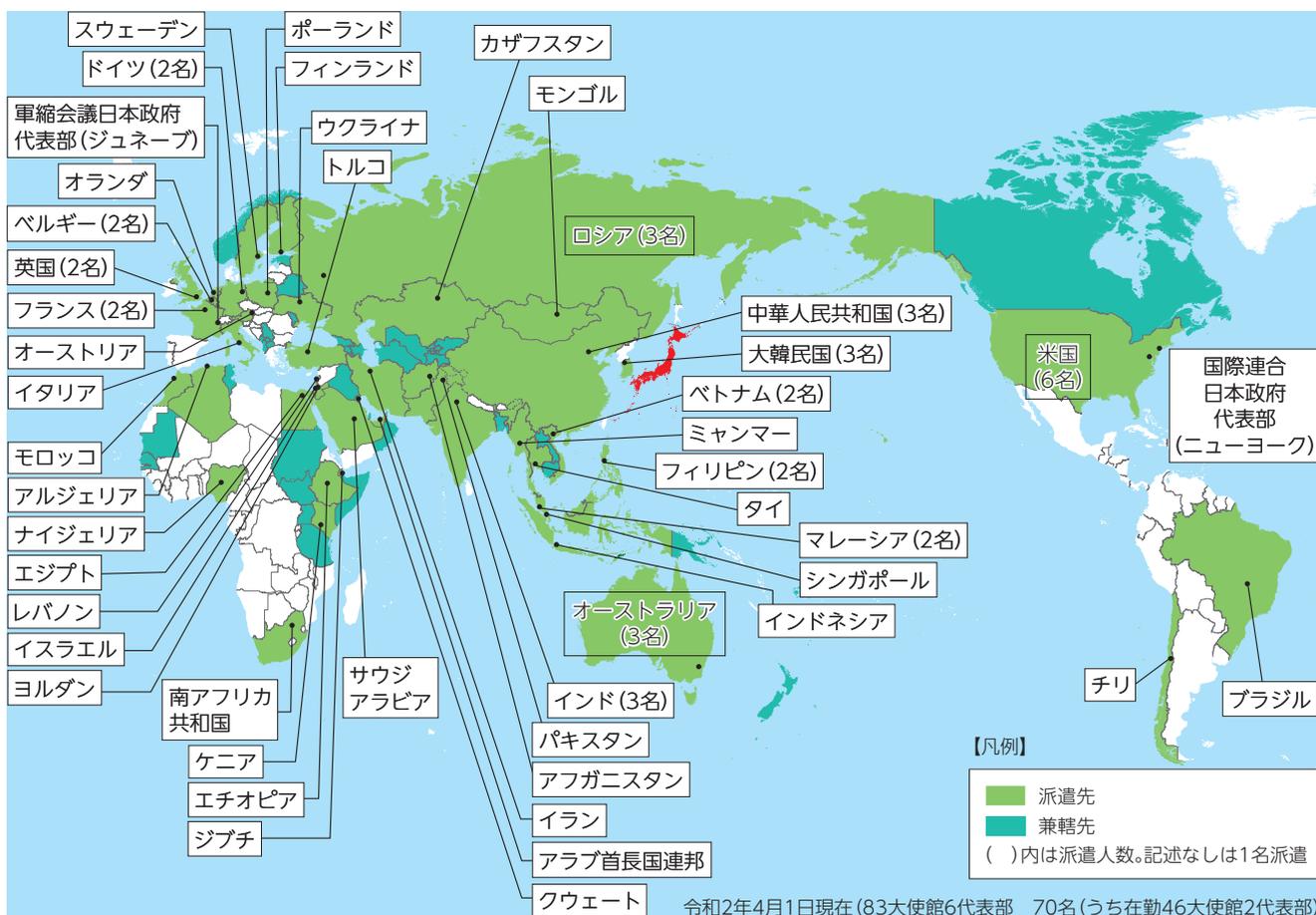
防衛省・自衛隊による具体的な情報収集の手段としては、①わが国上空に飛来する軍事通信電波や電子兵器の発する電波などの収集・処理・分析、②各種画像衛星（情報収集衛星¹を含む）から

のデータの収集・判読・分析、③艦艇・航空機などによる警戒監視、④各種公刊情報の収集・整理、⑤各国国防機関などの情報交換、⑥防衛駐在官などによる情報収集などがあげられる。

防衛駐在官については、19（令和元）年10月に在マレーシア防衛駐在官がブルネイを、20（令和2）年2月に在ベルギー防衛駐在官が欧州連合（EU）日本政府代表部をそれぞれ新たに兼轄し、20（令和2）年4月現在、83大使館6代表部（うち在勤46大使館2代表部）に70名を派遣している。

参考 図表Ⅳ-3-1（防衛駐在官派遣状況（イメージ））

図表Ⅳ-3-1 防衛駐在官派遣状況（イメージ）



¹ 政府の情報収集衛星は、内閣衛星情報センターにおいて運用されているものであり、防衛省は他省庁とともに、情報収集衛星から得られる画像情報を利用している。

VOICE 各国防衛駐在官の声

イラン

1等陸佐 かねこ ひろゆき 金子 洋幸

正規軍と革命ガードの2つの軍が存在し、昨今の中東情勢の中心でもあるイランという特徴的な国に駐在するただ一人の自衛官として、絶



武官団との交流（自宅設宴）
（筆者：右から8人目）

えず変化する安全保障環境を肌で感じつつ、その責任の重さに身が引き締まるとともに、日本・イランの良好な二国間関係が、防衛駐在官の業務にとっても重要な基盤となっていることを実感します。またイランでは、駐在する武官団の関係が強固です。この国で、有事には祖国のために命をかける覚悟を当然のように持った各国武官などと日々交流していると、自衛官としての原点に立ち返る思いです。残りの任期、自らを見つめつつ、国益のために引き続き邁進します。

カザフスタン

1等陸佐 でぐち あらた 出口 新

中央アジアの雄といわれるカザフスタンの防衛駐在官として、当地におけるロシア、中国、欧米諸国等の各種軍事動向に注視する日々を送っています。帝政ロシア時代からの歴史的経緯により、ロシアとの繋がりが強固なカザフスタンですが、全方位外交を指向し日



レセプションで各国武官と
（筆者：左から2人目）

本との防衛協力促進にも熱心です。日カザフスタン関係発展のために、微力ながらも貢献できることに大きな充実感を感じています。広大な国土を有する陸軍国であるカザフスタンには、各国から多くの陸軍武官が派遣されており、日本を代表し彼らと交流することは、他では得難い経験です。

マレーシア

2等海佐 いがらし なおみ 五十嵐 尚美

19（平成31）年3月からインド洋と太平洋をつなぐ地政学的要所にあるマレーシアに初の海上自衛隊出身の防衛駐在官として勤



在マレーシア大使館現地職員と筆者
（筆者：中央）

務しています。防衛交流推進や国防に関する情報収集のため、海軍をはじめ国防省、シンクタンク及び各国駐在武官などとの調整や意見交換を日々行っています。特に複雑多岐にわたる調整を経て無事艦艇や航空機を出迎えるときは感慨深いものがあります。またマレーシアにおける日本への信頼感を随所で感じており、この良好な関係を更に一歩前進させる架け橋となるよう一層努力していきたいと思ひます。

モロッコ

2等空佐 おちあい たかし 落合 貴史

私は、在モロッコ大使館防衛駐在官として、17（平成29）年7月からラバトで勤務しています。

モロッコは、1956年にフランスから独立した立憲君主制国家であり、独立以降、日本とは良好な関係を維持しているとともに、地中海の出入口に位置する軍事戦略的要衝として、世界中から多くの武官が派遣されています。

現時点で両国間の防衛協力・交流は限定的ですが、19（平成31）年4月に初めてモロッコ軍将官以下66名による日本での自衛隊研修を実現できました。

引き続き、在モロッコ防衛駐在官として、両国の関係発展のために尽力したいと思います。



モロッコ軍による記念艦三笠の視察に
同行する筆者
（筆者：左から2人目）
【公益財団法人 三笠保存会提供】

2 情報機能の強化に向けた取組

防衛大綱などにおいては、政策判断や部隊運用に資する情報支援を適時・適切に実施するため、情報の収集・分析・共有・保全などの各段階における情報機能を総合的に強化するための取組を推進することとしている。

具体的には、情報収集・分析機能について、情報収集施設の整備や能力向上、情報収集衛星・商用衛星などの活用、滞空型無人機を含む新たな装備品による情報収集手段の多様化などにより、電波情報・画像情報の収集態勢を強化するとともに、防衛駐在官制度の充実をはじめとする人的情報の収集態勢の強化、公開情報の収集態勢の強化、同盟国などとの協力の強化などにより、新たな領域に関するものも含め、ニーズに十分に対応できるよう、情報収集・分析機能を抜本的に強化することとしている。

その際、情報処理における最新技術の積極的活

用、多様な情報源と融合したオールソース分析、情報共有のためのシステムの効率的な整備・接続を進めることとしている。

また、多様化するニーズに情報部門が的確に对应していくため、能力の高い情報収集・分析要員の確保・育成を進め、採用、教育・研修、人事配置などの様々な面において着実な措置を講じ、総合的な情報収集・分析機能を強化することとしている。

情報保全については、関係部局間で連携しつつ、教育などを通じ、知るべき者の間での情報共有を徹底し、情報漏えい防止のための措置を講じるなど、情報保全のための取組を徹底するとともに、関係機関との連携の推進などにより、防衛省・自衛隊におけるカウンターインテリジェンス機能の強化を図ることとしている。

3 情報本部

1 情報本部の任務

情報本部は、冷戦後の安全保障環境が複雑さを増している中で、高度かつ総合的な情報収集・分析を実施できる体制を整備するため、97(平成9)年に創設された防衛省の中央情報機関であり、わが国最大の情報機関である。電波情報、画像・地理情報、公刊情報などを収集し、国際・軍事情勢等、わが国の安全保障にかかわる分析を行っている。

2 情報本部の活動

情報本部は、陸・海・空の自衛官と事務官・技官(語学系、技術系、行政・一般事務)からなる組織であり、自衛官は各自衛隊の部隊等における経験に基づく知見を、事務官・技官は語学、技術等

の専門的な知識を駆使し、一丸となって業務に従事している。

具体的には、外国の軍隊の動向等刻々と変化する国際情勢について、電波情報、画像情報、新聞、雑誌、インターネットなどの公刊情報、関係者との意見交換等からもたらされる交換情報といった、あらゆる情報源から得た情報に基づき、軍事的、政治的、経済的要因を含む様々な観点から総合的な分析を実施している。

情報本部の情報業務の成果は、分析プロダクトとして、内閣総理大臣、防衛大臣、内閣官房国家安全保障局、内閣情報調査室や陸・海・空自衛隊の各部隊に対して適時適切に提供され、政策判断や部隊運用を支えている。また、関係省庁や諸外国カウンターパートとの情報交流も積極的に実施している。